

## 佳作

# 笑顔のぬくもり

田中 奈美恵

愛知県



「こうくん髪切ったね。ママが切ったの？」

「ううん、動くしめんどくさいから美容院へ連れてった。」

「うちも前髪だけ伸びたからこの前切りに行ったよー。」

二歳の幼子を持つママ友たちが言う。私は思わずおもちゃで遊んでいる我が子を振り返る。線をひいたようにパツンとなった前髪。先日私が切ったのだ。視線が合い、息子が愛らしく微笑む。パツンの前髪も、悪くないじゃん、私も微笑み返す。

「髪チョコキチョコキするよ〜。」

幼き日、私の美容院はいつも我が家。床に新聞紙を広げる、専属美容師は私の母。

「はい、前髪切るよ。目つぶって。」

目を閉じると、顔を近づけてくる母のぬくもりを感じる。そして次の瞬間、決まってフッと息を吹きかけてくる。

「キャハハ！くすぐったい！」

そんな母の息遣いを感じるのが大好きだった。

あれから三十年。今では私が息子の専属美容師だ。

「はい、動かないで。目つぶって。」

ギュッと目を閉じる息子の顔にそっと近づき、フッと息を吹きかける。

「キャハハ！」

息子がのけぞり、楽しそうに笑う。

この光景に、いつか終わりが来ることを私は知っている。だからこそ、今は精一杯、楽しくその時を過ごしていきたい。美容院へ連れて行くのもいいけれど、私が母からもらったあのぬくもりを、この幼き命に伝えたい。息子の脳裏に、明るく笑って髪を切る、私の姿が残りますように。

「カリスマママ美容師だぞ〜」

くだらないダジャレにキョトンとする二歳児。床中に新聞紙を敷き詰めながら、私は笑う。また今日も、大きな大きなぬくもりを、思いをこめて伝えていこう。